

きずな
号外

特定行為研修が始まります！

当院は令和4年4月から特定行為研修の指定研修機関に認定されました。今後、受講生の受入れを増やしながら、看護師のレベルアップを図るべく研修を実施していきます。

特定行為研修とは...

看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修で、地域医療及び多様な臨床現場において、医療安全を配慮しつつ特定行為に必要な専門的臨床実践能力を育成すること、また、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能し、患者さんと家族のQOLの向上を目指して、地域社会に貢献できる看護師を育成することを目的とするものです。

特定行為研修の開始にあたり...

皮膚・排泄ケア認定看護師になり、創傷（褥瘡）ケアの専従として10年経過し、褥瘡や創傷を治癒させるための限界を感じていました。

創傷を早期にきれいに治癒させるためには、壊死した組織を切除する必要がありましたが、ハサミやメスを使用しでの処置は医師の医療行為であったため、看護師である私は、必要時、すぐに処置をすることが出来ませんでした。そのため、褥瘡の治癒が遅れ、ケアに難渋することが度々ありました。

2016年特定行為試行事業が終わり、特定行為研修を日本看護協会の研修学校が開始する時、当時の看護部長が「今後あなたのキャリアの中で必ず必要になる」と、背中を押してくれて研修を受けました。

その結果、今では、看護師だけでなく医師からも「傷をきれいに早く治すにはどのようにしたら良いか」などの相談を受けることが大変多くなり、医師との情報共有が密になりました。そして、傷が治らないで不安を抱えている患者さんには看護師だからこそできる、細かな説明を心掛け安心して治療に臨んでいただけるように支援できるようになりました。多忙である医師の手術や業務を待つことなく、医師からの包括支持である手順書をもとに患者さんの全身をアセスメントし、傷をスムーズに治すことができること、医師を含む医療スタッフや患者さんにも特定行為研修で得た知識や技術を認めてもらえていることは、私自身のやりがいにつながっています。今年度から、私が行っている特定行為を多くの看護師にも広げていける当院での特定行為研修が始まります。益々、手術や褥瘡の傷を早期にきれいに治し、笑顔の患者さんが増えることを願っています。



皮膚・排泄ケア認定看護師、特定行為看護師
清水けい子

牧野肝胆脾外科主任部長へインタビュー



Q 特定行為をする看護師を日頃どのように感じていますか？

A ストーマケアのみならず、手術創や瘻孔など様々なことに対応してもらい、日々、本当に助かっています。

Q 特定看護師に要望はありますか？

A 今は、ほとんどの傷のことを相談させてもらっています。ただ、1人しかいないので、とても忙しいそうで…。もう少し、創傷のケアができる看護師が増えるとよいと思います。

Q 当院で特定行為研修を行って今後増やしていくことになるんですよ。そのことに対しては、どうお考えになりますか？

A 今しっかり患者さんを見て、医師とともに支援できる専門の看護師が増えるとよいなと感じます。誰にでもできることではないけど、頑張ってもらいたい。

特定行為研修の実施状況

今年度の受講生は院内の看護師に限られますが、今後は院外からの募集も検討しています。

○令和4年度実施日程

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
開校式											
eラーニング授業(期間中に筆記試験を予定)											
集合研修(9~15日間) ※1											
								臨地実習 ※2			
											終了式

※1 集合研修では演習を行います。

※2 臨地実習は実習期間内に必要な症例数を経験します。

○取得できる特定行為

特定行為区分
栄養及び水分管理に係る薬剤投与
創傷管理関連

○当院の特定行為研修既修了者の状況

特定行為区分	取得人数
栄養及び水分管理に係る薬剤投与	3人
創傷管理関連	1人
感染に関わる薬剤投与関連	1人

～活動紹介～

当院は、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。その取組みの一つとして、がん患者さんの治療方針等について、毎月異なる診療科が症例に基づき発表を行うがん診療連携拠点病院（院内カンファレンス）を開催しており、診療科を越えた多職種の医療従事者同士で意見交換を行っています。

患者さんにとって質の高いがん医療の提供に取り組んでおりますので、ご紹介の程、よろしくお願いいたします。

今度とも、地域の医療機関の皆様と手を取り合いながら地域医療の充実に努めてまいります。

